

「共闘」の是非 民進に摩擦

12日午後、東京・永田町の民進党本部。「安倍さんが重点区として回った10の1人区は自民党の1勝9敗だった。安倍さんが入ったことが我々にとってには良かったんじゃないか」。岡田克也代表は常任幹事会でこう強がりを見せた。出席者の笑いを誘った。

執行部、継続を模索 保守系「共産とやれぬ」



—中—

今回の参院選で民進党は改選45を割り込み、32議席にとどまった。大勢判明後の11日未明、硬い表情を崩さなかった岡田氏が周辺から「野党系無所属の3議席を加えれば3年前(17)から倍増に達しますよ」と言われると、相好を崩した。周辺は岡田氏の胸中をこう察する。「本人は負けたいとは思っていない」

阻止するとして与党などの改憲勢力3分の2の達成を許した。ただ、共産、社民、生活と候補を一本化した全32の1人区では野党陣営の11勝21敗と前回2013年の2勝29敗からやや持ち直して

いる。常任幹事会では、政権奪取の反転攻勢に向けて弾みになった。東京都知事選で勝てば、さらに弾みがつく」と肯定的な意見があがった。

12日夜、国会近くのホテルにある中華料理屋。細野豪志元幹事長とその側近議員らが集まり、参院選の慰労会を開いた。「競ったところで勝てたのは大きい」「でも、共産党とやっているとのは難しいね」。約3時間半続いた宴席で、野党共闘への評価は割れた。「衆院選は民進党が主導して政策を打ち出し、共産党がそれについて来られないなら一緒にやることはない」との声も上がる。

保守系議員は「共産党と組んだことで、保守・中道票が逃げる」との懸念を抱えていた。しかし野党合計の得票数は、今回は32の1人区のうち、8割を超す27選挙区で前回よりも増えている。別の保守系グループに属する衆院議員は執行部の一

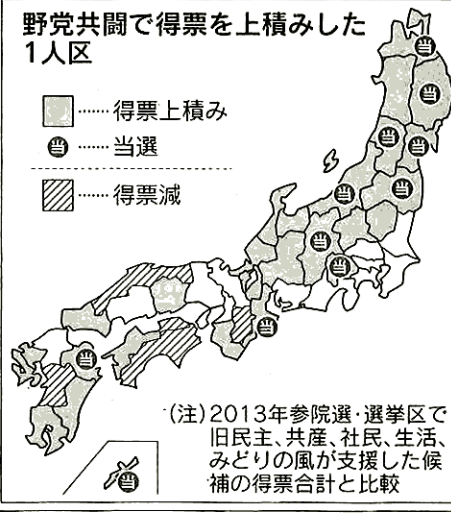
人にこう探りを入れた。「次の選挙で共産党に候補を取り下げてもらえるだろうか」

共闘への評価は次の衆院選をどう戦うかという議論に直結し、9月に予定する代表選の争点の一つとなる。

共闘継続を模索する岡田氏は代表選への出馬について「白紙」と述べるにとどめている。「あんな、進退についてあれこれ言う必要はねえからな」。参院選後、党重鎮の奥石東参院副議長からの電話に岡田氏は「私もそのつもりです」と応じた。当面は党内情勢を見極める構えだ。

は思っていない」

阻止するとして与党などの改憲勢力3分の2の達成を許した。ただ、共産、社民、生活と候補を一本化した全32の1人区では野党陣営の11勝21敗と前回2013年の2勝29敗からやや持ち直して



共闘で得票上積み

参院選1人区での野党共闘の効果を前回2013年の参院選と比べる。8割強の選挙区で一定の効果が出ている。今回共闘した4党などの前回よりも20万票以上も多くの票を集めた。得票回得票の合計と今回の野党統一候補の得票を比べて、32ある1人区のうち、27選挙区で得票数が増えた。得票率も26選挙区

1人区32のうち27選挙区

司元外相、長島昭久元首相補佐官らの名が挙がっている。細野氏は側近から「出てくださいよ」と水を向けてくれているが、態度を明らかにしていない。松野頼久氏ら旧維新の党のグループも前原氏らとの連携を視野に入れ、キャ

スチングボートを握ろうとしている。保守系には憲法改正に理解を示す議員も少なくない。共闘の是非に政策論争が加われば、党内対立が抜き差しならない段階に入る懸念がぬぐえない。

で統一候補が獲得した票数が上回っている。とくに山形選挙区では比例得票の7割増まで統一候補が集めた。逆に振るわなかったのは富山選挙区で、比例得票の7割程度にとどまった。

各選挙区で野党4党が獲得した比例代表の得票数と比べても、28選挙区